

「池干し」を 生態学的に考える

TV番組「池の水ぜんぶ抜く大作戦」では、外来魚捕獲の様子が放映され、それに対して「『池の水』抜くのは誰のため？—暴走する生き物愛」（新潮新書）が新聞書評欄で取り上げられるなど、「ため池の池干し」が話題となっています。

学部時代にため池に生息する貝類（ドブガイ）の分布について研究を行った経験などを交え、ため池の生態系、池干し、および池干しと生物との関係についてお話しします。

農業用水確保のために作られた「ため池」は、冬季に水を抜いて泥を取り除く作業（池干し）が行われてきました。池干しによる水位の変化は、氾濫原環境を好む生物に適した環境を形成するため、ため池の豊かな生態系を維持する一つの要因となっています。しかし、近年、ため池の老朽化、人手不足、外来種問題などによって、ため池や池干しの在り方は、転換期にあると考えられます。



日時 令和3年

1月26日(火)

19:00~20:30

場所

愛媛県県民文化会館別館
(松山市道後町2丁目9-14)
第15会議室 Tel 089-923-5447

対象

自然に関心がある人 30人

参加費

200円

◆話題提供 東垣 大祐さん

1995年生まれ、神戸市出身。兵庫県立大学を経て現在、愛媛大学大学院理工学研究科生態学研究室博士課程に在籍。好きな生き物はチュウガタスジシマドジョウ。

学部時代に「兵庫県でため池に生息するドブガイの分布」や「環境DNAによるドブガイの検出」などを、愛媛大学大学院では、「重信川流域の魚類群集の年次変動」や「流路合流点における魚類の流路選択性」などを研究し、現在は「仁淀川水系におけるアマゴとイワナの種間競争」などをテーマとしている。

【お申し込み】お名前、電話番号、e-mailアドレス(お持ちの場合)を明記の上、下記連絡先までお申し込みください。(個人情報適正に管理し、当事業関係のご連絡にのみ使用します。)

NPO法人 森からつづく道 (松山市鉄砲町1-7)e-mail:info@morimichi.org FAX:089-992-9152

★新型コロナウイルス感染防止のため、換気に留意し、消毒薬を設置します。マスクを着用願います。